松川町立松川北小学校 学校だより No. 9　　令和４年１１月１１日

桐の木

下伊那郡松川町上片桐2930番地
Tel (37) 2004　Fax (37) 3278
Mail matukita@bz04.plala.or.jp

学力向上に向けて　～令和4年度　全国学力・学習状況調査の結果より～

本年度、６年生を対象に実施しました全国学力・学習状況調査に関して、本校での分析結果の特徴的な部分について報告いたします。

１　松川北小学校６年生の平均正答率と長野県平均・全国平均との比較

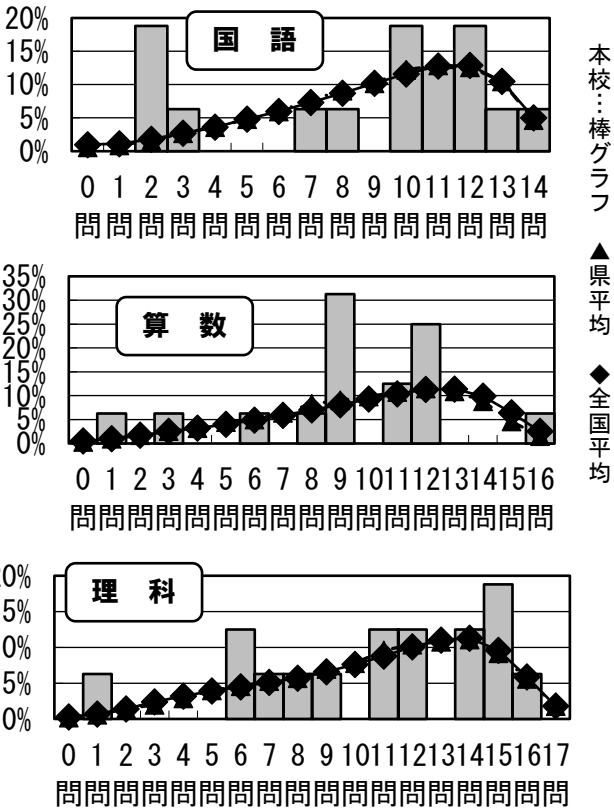
県・全国平均と比べ、理科は同程度の値となりましたが、国語と算数は若干低めの結果となりました。

領域別にみると、国語は「書くこと」の正答率が非常に高く、全国平均よりも約８ポイント程度高い結果となっています。しかし、「言葉の使い方に関する事項」や「話すこと・聞くこと」に関しては７～８ポイントほど低くなっており、表現の効果や働き、話し合いの意図を明確にして自分の考えをまとめる等に課題が残りました。

また、算数は「変化と関係」に関しては全国平均より若干上回っているものの、「図形」は10ポイントほど低くなっており、図形の意味や性質、構成の仕方の考察が課題となっています。

さらに今年度は理科も実施され、「エネルギーを柱とする領域」は約６ポイント上回る結果でした。しかし、「生命を柱とする領域」は７ポイントほど下回っており、領域によって定着に差があることが見えてきました。

どの教科も、知識・技能の正答率が低い傾向があります。この課題に対して、どの学年でも授業の中や家庭学習において、自らの学びを調整しながら粘り強く進めていく主体的な学習や、友だちとの学び合いの中で理解を深める協働的な学習に力を入れ、学年や児童の実態に合わせて取り組んでいきたいと思います。

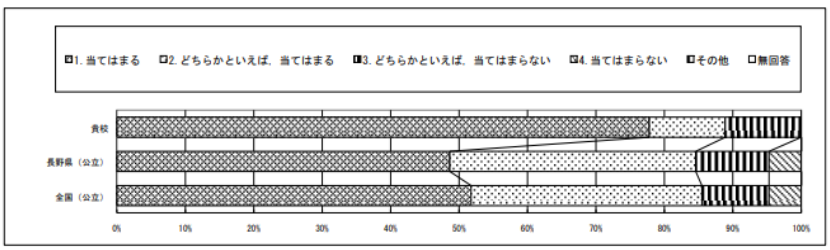


２　松川北小学校６年生の児童質問紙から見えてきたこと

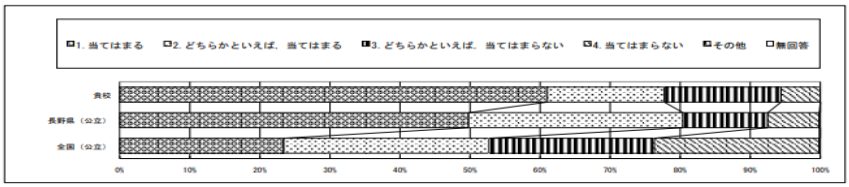
全国学力・学習状況調査では、学習や生活に関して、様々な視点から児童に質問をしています。その中から見えてきた本校６年児童の傾向について以下に挙げます。

（１）生活全般について

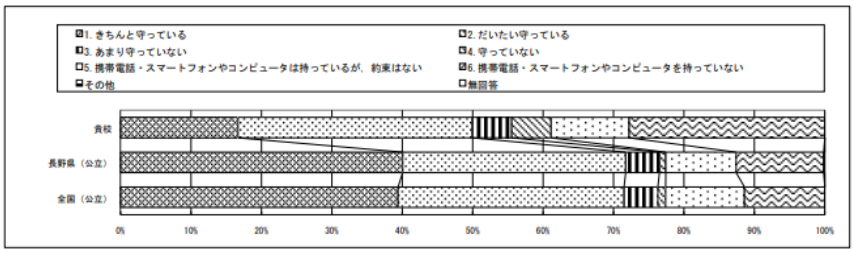
①学校に行くのは楽しいと思っている児童が多い



②地域の行事に参加している児童が多い

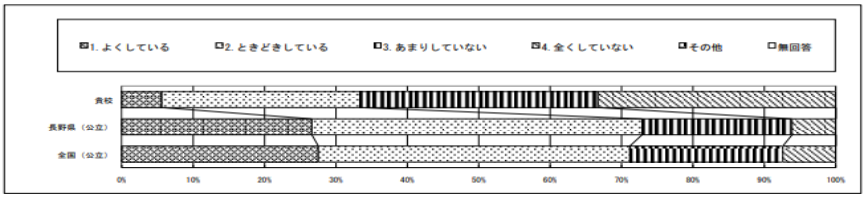


③携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人との約束を守ることがなかなかできない児童が多い

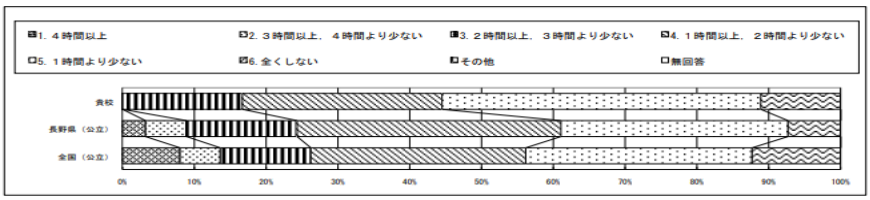


（２）学習について

①家で自分で計画を立てて勉強をしている児童が少ない



②学校が休みの日に勉強している時間が少ない傾向がある

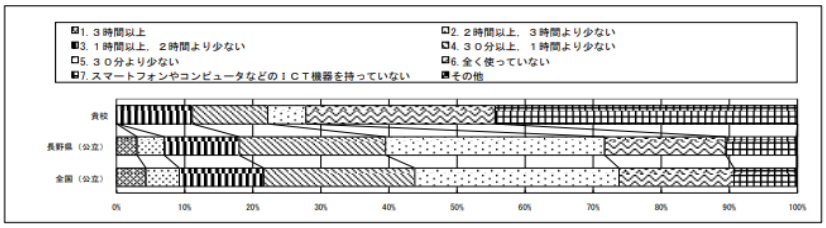


これらの結果から、他者との関わりの中で楽しく充実した学校生活を送っていること、また、自分の地域を愛し地域の一員として伸び伸びと生活することができている一方で、学習習慣やメディアとの付き合い方に関して課題があることが見えてきました。メディア使用が学習習慣形成に影響を及ぼしている可能性も十分にあると思われますので、ご家庭と協力しながら、家庭学習のあり方やメディアとの付き合い方を見直す機会を設けていきたいと思います。

３　今後の取組みの重点

（１）タブレットやコンピュータ等、ＩＣＴ機器の有効性を生かした学びのさらなる充実

児童質問紙の「１日当たりどれくらいの時間、ＩＣＴ機器を勉強のために使っているか」という質問項目の結果から、本校は学習に使っている時間が少ないことがわかりました。今年度はＩＣＴ活用を校内研究の重点にも据えて取り組み、昨年度より使用頻度は増加傾向にありますが、いまだ十分に活用できているとは言えない状況です。引き続き授業や家庭学習等で使う頻度を増やして日常的な学習ツールの一つとするとともに、デジタル教科書や資料動画等の教材を有効活用して日々の授業を充実させていきます。



（２）「自分の考えをまとめ、他者に伝える」思考力、判断力、表現力等の育成

児童質問紙の「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」と「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか」という質問項目の結果から、本校は自分の考えをまとめたり、表現を工夫して発表したりする学習活動がかなり少ない傾向にあることが伺えました。自分の考えや学びをアウトプットし、伝え合い、認め合う協働的な学びができるよう、今後も日々の授業改善に努めてまいります。

児童１人１人の学力向上を目指して、これからもご家庭と協力しながら取り組んでまいりたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

（文責：教頭　山田綾子）